



水 稲 管 理 情 報

令和 7 年 4 月
J A 志 賀
能登南部営農推進協議会

育 苗 編

「5つの1か月対策」 育苗日数は1か月以内！

- ・昔から「苗半作」といわれるように、苗づくりの善し悪しはその年の収量や品質に影響します。
- ・良い苗とは「がっちりした太い苗」です。決して「長い苗」ではありません。
- ・苗の生育段階によって、管理が異なります。良い苗を作るためにも、生長に合わせて適切な管理をしていきましょう！

1 育苗ハウスの準備及び苗箱並べ

〔苗箱の並べ方1つで苗の揃いかわる〕

● 予めハウス内の地面はならしておきましょう。

→ ハウス内の地面に傾きや凸凹があると、生育に影響し苗が不揃いになります。

● 原則、地面にシートは敷かないでください。

→ シートを引くと、苗箱からの排水が妨げられ病害が発生しやすくなります。

● 温暖な日中(できれば風の無い午前中)に苗箱をハウス内に隙間なく並べましょう。

→ ハウスのへり(外縁)は低温や水滴がたまりやすく、苗が不揃いになるので、へりから10cm程度あけて置きましょう。

● ハウスに並べた当日は原則、かん水しないでください。

→ この時期の水分過剰は出芽ムラや発根不良のほか、病害の原因となります。過度に乾燥している場合のみ軽くかん水する程度としてください。

● 被覆資材(シルバーポルトウ等)で覆い遮光し、資材の特徴に応じて管理して下さい。

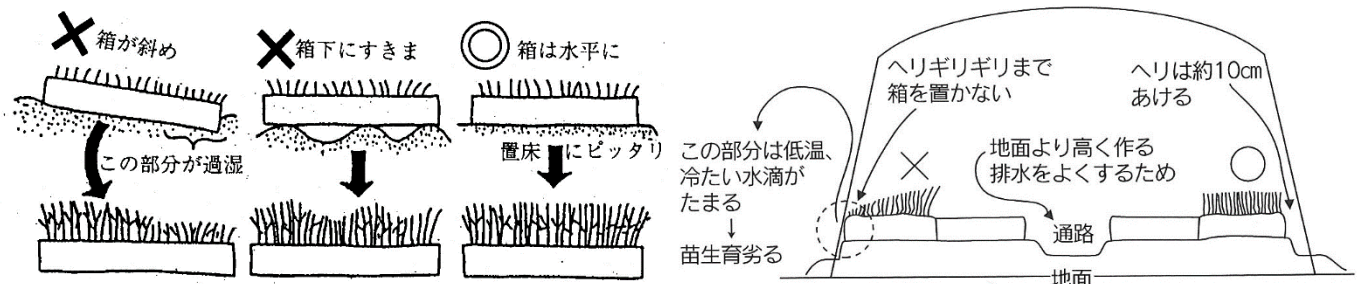


図1 苗箱の並べ方のポイント

2 育苗期間の病害対策

〔ハウス内の温度管理でムレ苗の防止〕

- ・例年、ハウス内の温度管理の失敗により、ムレ苗の発生が多くみられます。
- ・急激な温度変化が起きないように、換気や温度管理に努めましょう。
- ① 高温時には換気し、高温(35℃以上)・多湿条件にならないようにして下さい。
- ② 緑化期以降は、急激な温度変化や多湿条件でムレ苗が発生しやすくなるので、日中は25℃以上、夜間は5℃以下にならないよう換気や保温に努めましょう。


表1 病害の原因と対策 ※「タフブロック」等の微生物農薬を使用した場合は「タチガレエース」のみ使用できます。

病原菌(症状)	原因および対策	適用薬剤・使用量	使用時期・回数
リゾープス菌 (白カビ)	・出芽期の高温や緑化期以降の低温、過湿条件で発生 → 換気を十分に行い、土の表面が乾き始めるまで灌水しない	ダコニール 1000 (1成分) 500倍液を500mL/箱かん注	は種時～緑化期(は種後14日以内) 使用回数2回まで(いずれかの薬剤をは種時に使用していれば、育苗時は残り1回使用可)
トリコデルマ菌 (青カビ)	・育苗機器の汚染によって発生 → 播種前に育苗機器を洗浄・消毒	ダコレート水和剤 (2成分) 500倍液を500mL/箱かん注	
フザリウム菌 (赤カビ)	・緑化期間中の異常な低温条件で発生しやすい → 保温・加温		
ピシウム菌 (ムレ苗)	・緑化期以降の急激な温度変化や日照不良によって発生 → 薬剤を散布後、寒冷紗等で遮光し、蒸散を制限すると効果的	タチガレエースM液剤 (2成分、) 500倍液を500mL/箱かん注	は種時又は発芽後 使用回数1回まで

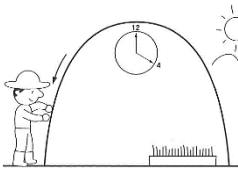
3 育苗管理について〔苗の生育に合わせた管理の徹底〕

◆育苗初期(緑化期:3~4日間)【かん水を極力控える、できればやらない】


- ・第1葉の先端が見えて、葉が緑色となり、苗の高さが3cm程度となった時点を緑化とし、確認したら直ちに被覆資材を取り外して下さい。
- ・被覆資材のしわやヨレ、資材上部の水たまりは、高温障害(葉焼け)の原因となるので注意しましょう。

育苗初期(緑化期) (苗箱並べから3~4日間)	温度管理 (温度計は苗の高さ)	水管理
<p>遮光のため、3~4日被覆</p>  <p>【朝7~8時】 土の乾燥を見て、必要なら少しかん水。</p>	<p>昼間: 20~25℃</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 晴れた日は喚気し、<u>高温(25℃以上)</u>にならないようする。 →被覆資材が風でめくれないように注意。 <p>夜間: 15~20℃</p> <ul style="list-style-type: none"> ● <u>15℃を下回るときは、十分に被覆し保温。</u> →霜注意報が出たときはストーブ等で加温。 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>かん水は極力控える。</u> →床土が極端に乾かない限りかん水しない。 →過湿状態が続くと苗箱の温度が上がらず生育が遅れ、カビの発生を招く。 ● 寒冷紗の上から水をやらない。 ● 覆土の持ち上がりがある場合は軽くかん水。

◆育苗中期(硬化前期:8~10日間)【温度・湿度管理で病害防止】

硬化前期 (被覆除去8~10日間)	温度管理	水管理
<p>こまめな喚気を!</p>  <p>【夕方15~16時】 ハウスを閉める</p>	<p>昼間: 15~20℃</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 晴れた日は朝から喚気。 →<u>夜間の低温が予想されるときは、午後早めに閉める。</u> ● 喚気する場合は、<u>風が入らないよう風下側を開ける。</u> →風に当たると葉がかすれ、生育に影響。 <p>夜間: 10~15℃</p> <ul style="list-style-type: none"> ● <u>10℃以下に冷え込むときは被覆し、保温に努める。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ● かん水は、床土の乾き具合を見て朝1回。 ● <u>夕方のかん水は控え、必要な場合は翌朝かん水する。</u> ● <u>雨や曇の日は、かん水を控える。</u>

◆育苗後期(硬化後期:田植前8~10日間)【外気に慣らして田植え準備】

硬化後期 (田植え前8~10日間)	温度管理	水管理
 <p>【朝7~8時】 晴れた日は、水やりと喚気</p>	<p>昼間: 15~20℃</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 日中はハウスを喚気し外気にならす(順化)。温度が上がりすぎるときはハウスの腰部も開ける。 <p>夜間: 10~15℃</p> <ul style="list-style-type: none"> ● <u>田植え4~5日前からは夜間も喚気。</u> →極端に冷え込む日は、保温に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>毎朝たっぷり1回かん水。</u> →苗箱の周辺部は乾きやすいので十分にかん水する。 ● <u>2回目のかん水が必要な場合は、午後3時までにはすませる。</u> →夕方以降では水が冷たくなり、苗の生育に影響。

令和7年の農作業安全確認運動の実施について

<テーマ>「学ぼう!正しい安全知識 ~機械作業の安全対策と熱中症の予防策~」

- ・農業機械作業による事故と熱中症による身体被害が多い。
- ⇒【事故防止対策】ほ場周辺の危険箇所の確認・危険箇所での減速、危険箇所の改善
気温が高い日のこまめな休憩など、適度な休息の取得

【被害軽減対策】シートベルトとヘルメットの着用、安全フレーム付きトラクターの利用、熱中症対策の実施

「代かき後の濁水を河川へ流さないように努めましょう」

代かき後の濁水の流出は下流域の濁りの原因となります。ほ場からは僅かな流出でも、それらが集まると大きな河川の濁りにつながります。流出防止のために、代かき作業は浅水で行い、田植前に濁水を流す「強制落水」は行わないでください。